

上部内視鏡検査（胃カメラ）に関する説明・同意書

【上部内視鏡検査（胃カメラ）の目的】

鼻腔または口腔から内視鏡（胃カメラ）を挿入して、食道・胃・十二指腸の中を観察し、炎症性疾患・ポリープ・潰瘍・癌などの病変の有無等を評価するための検査です。検査中に正常とは違う所見（以下所見）を認めた場合に、その部位の組織を採取し、病理検査（精密検査のため別途料金が発生します）に提出することで癌などの診断確定が可能となります。病理検査の結果報告までは2週間程度の時間を要します。

【検査の方法について】

鼻腔内と咽頭（口腔からの場合はのど）の表面を麻酔します（意識過鎮静法を希望された方は鼻腔咽頭麻酔の前に点滴を行い、鼻腔咽頭麻酔後に鎮静剤を注射します）。その後、鼻腔または口腔から内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら食道・胃・十二指腸を観察します。観察等が終了したら、カメラをゆっくり引き抜いてきて検査を終了します（意識過鎮静法を行った場合には、処置室で1～2時間お休みいただきます）。検査終了後には診察室で医師から検査結果等について説明をお聞きいただきます。

※検査中に所見を認めた場合には、色素撒布（インジゴカルミンまたはヨード）や組織の採取を行う場合があります。採取した組織は病理検査（精密検査のため別途料金が発生します）に提出することで癌などの診断確定が可能となります。病理検査の結果報告までは2週間程度の時間を要します。

※検査中に病変からの出血や異物がみられた場合には、医師の判断により、止血術や異物除去術などの処置をご本人に断りなく行うことがあります。

※強い咽頭反射や、合併症が起こった場合は、検査を中止することがあります。

【合併症について】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。

本検査においても消化器内視鏡学会から合併症の頻度についての全国集計結果が報告されていますので以下に記します。

- ・内視鏡による消化管粘膜の出血・穿孔 発生頻度：0.005%（20,000人に1人）
- ・検査に伴うショック（血圧低下等）、アレルギー等 発生頻度：0.004%（25,000人に1人）

その他の合併症としてマウスピースを強く噛むことで、ぐらついている歯が折れたり欠けたりすることがあります。唾液の誤嚥により、遅れて肺炎（誤嚥性肺炎）を起こすことがあります。上記の合併症が起きた時は、適切な処置を行います。入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

合併症を予防するため、下記の項目に当てはまる方は事前にお知らせください。

- ① これまでに、歯科治療、局所麻酔などでアレルギー症状の方、あるいは気分が悪くなったことのある方（咽頭麻酔にはキシロカインを使用します）。
- ② ヨードに対してアレルギーのある方。
- ③ 当院で治療中の病気以外に、他の医療機関で治療中の病気がある方、または過去に入院・治療歴のある方。
- ④ 糖尿病薬を服用もしくは、インスリン注射をしている方。
- ⑤ 抗血栓薬または、抗凝固剤を内服中の方。
- ⑥ 妊娠中の方、授乳中の方。

【意識過鎮静法・鎮静剤について】

原則として内視鏡検査を受ける方には、リラックス効果のある鎮静剤を注射します。鎮静剤はドルミカム（ミダゾラム）を使用します。検査後には1～2時間はクリニック内で休んでいただきますが検査後1日は、自動車・バイク・自転車などの乗り物や、重機などの機械の運転・操作はできません（道路交通法第66条をご参照ください）。そのため検査後の帰宅方法についてはご家族も含めご相談のうえ、帰宅方法を確定しておいてください。意識下鎮静法を希望されない場合は意思表示をお願いします（下記☑欄）

鎮静剤を注射している間に体動が大きくなる場合には、安全のために体をおさえたり、危険な場合には検査を中止することがあります。

～ 意識下鎮静法による鎮静剤注射ができない方 ～

- ・眼科で閉塞隅角緑内障（緑内障）と言われている方
- ・妊娠中・授乳中の方

説明者： _____

だいのほら殿塚クリニック 院長殿

私は、この度予定された上部内視鏡検査（胃カメラ）において、上記説明文により検査内容について十分に理解し、検査を受けることに

- 同意します 同意しません

なお検査にあたり意識過鎮静法を

- 希望します 希望しません

必要時には組織を採取（病理検査）することに、

- 同意します 同意しません

_____年_____月_____日

本人または

代理人署名： _____（続柄： _____）